

『美・TORIIZAKA♡』チームのメンバー。前列左から、時岡直子さん(施工事務)、チームリーダー廣瀬茉莉子さん(施工管理)、金本純愛さん(施工図)、本橋昌子さん(施工図)。後列左から鳩貝悦子さん(斫工/はつりこう)、熊谷理恵さん(防水工)、谷村愛美さん(家具工)、吉原有紀さん(タイル工)。



女性の力で 変わっていく 建設現場

少し前までは、「建設業は男の仕事」という考え方が根強く、たとえ「働きたい」と情熱があっても、女性が活躍するのは簡単ではありませんでした。しかし時代の変化と、逆境でも実力を示したパイオニアの女性たちによって、現場の意識は変わりつつあります。

チームで発揮する女性力 なでしこ 工事チーム

一般社団法人日本建設業連合会は、建設業における女性の活躍をアピールするため『なでしこ工事チーム』を登録・紹介しています。登録数は現在約20チーム。株式会社竹中工務店の『美・TORIIZAKA♡』チームを取材しました。

男性の意識も変わってきた 建設の現場

なでしこ工事チームの一つ『美・TORIIZAKA♡』は、工事の進行度合いによって若手メンバーの入れ替わりはあるものの、専門工事会社の作業員の女性も含めておよそ8〜9人の女性たちで構成されています。その細やかな仕事ぶりは際立っており、現場の作業所長である松岡久史さんは「建築の現場では、男性より女性の方が優れている場面が多々あります」と賛辞を惜しみません。

チームリーダーの廣瀬茉莉子さんは、施工管理担当。「大学では構造系

- 1 現場の入り口に置かれた鉢植え。花言葉も添えられている。
- 2 現場では作業着のメンバーも、通勤時は思い思いにおしゃれを楽しんでいる。
- 3 図面を広げる金本さんと本橋さん。自分の仕事が建造物となって何十年も残ることを誇りに感じている。
- 4 扉の建具を埋め込む溝をつくる嶋貝さん。松岡所長は「コンクリートを削る（研り/はつり）技術・精度では、男性も含めて彼女がナンバーワン」と語る。
- 5 女性チームをつくることは、女性視点からの気づき・要望を発信しやすく、労働環境の改善や仕事の質向上にもつながっている。



女性らしさを発揮する「現場環境を心地よく」

「トイレ入り口の『きれいに使しましょう』と書かれた貼り紙など、現場のあちらこちらに美化意識が感じられます。定期的に女性講師を招いてラジ

オの研究室で男性と同じように学びましたので、就職でも性別は関係なく学んだことを生かせる仕事をしようと思いましたが」と、平成20年に迷いなく建設業の世界に飛び込みました。「先輩方のときは、女性ということで半人前扱いされることもあったようです。でも私は、嫌な思いをしたことはないですね。かえって配慮していただいていると思います。男性の意識が変わってきたのではないのでしょうか」

オ体操やストレッチの指導をしつかり受けるのも、女性らしいアイデア。仕事に男女の能力差はなくても、性質の差はやはりあります。せつかくなら女性らしさを持ち込んで、職場環境を心地よくしていきたいものです。

また職場環境改善の一環として、竹中工務店は作業負担を軽減する女性用のウェア『職人DARWINING小町』をダイヤ工業株式会社と共同で開発しました。このウェアの企画には、廣瀬さんを始め、多数の女性が参加。腰や肩のサポート機能に加え、デザイン性を重視してステッチカラーやネック仕様も選べるなど、女性ならではの視点が生きた、実用的で楽しいウェアが生まれました。女性の体格や力の不利は、テクノロジーの発達によって徐々に補わ

チームとしての声発信で意識変化のさらに一歩先へ

れていきます。細やかな配慮ある作業の進め方や思いやりのあるコミュニケーションなど、女性らしさの発揮された仕事や建設現場に欠かせない存在となる日もそう遠くないのかもしれない。

業界全体では女性の数は依然少なく、女性チームが組める現場は多くありません。チームになることで女性の声を発信しやすくなるのが、なでしこ工事チームの意義の一つ。

男性の中にとった一人では言い出しにくいことも、女性の総意としてならより伝えやすくなります。「女性の目を気にする必要がない環境に慣れている男性は、更衣室ではなく休憩所で着

替えてしまつこともあります。ここでは女性たちから提案して、休憩所のドアのガラスをすりガラスにしてもらいました」と廣瀬さん。多数派の男性は意図せず男性中心の環境や慣習をつくってしまう場合もあるのです。

今、「女性を排除しない」というところまでは男性の意識は変わってきています。しかし、女性も働きやすい環境を整えるには、女性側からの発信がもっと必要です。なでしこ工事チームは、変革の第一歩を担う存在になることでしよう。

「建物として形が残る仕事に、やりがいを感じています」と口をそろえる女性たちは、現場にフレッシュな空気を吹き込みつつ、今日も作業に打ち込んでいます。

優れた技術者を大切にしたい

三好フローリング
高橋利幸代表取締役

いま、技術者の数は多くありません。高い技術を持つ星野さんのような女性には、ぜひ仕事を続けてもらえるよう、勤務時間や環境改善でもサポートしたいと思います。今後は建設マスターも視野に、ますます技術を磨いてもらいたいですね。



2



3

- 1 正確かつ素早く石膏ボードを骨組みに貼る作業。技術の差が仕上げの美しさに出る。
- 2 親方と星野さん、妹の篠原絵玲菜さん。4つ年下の絵玲菜さんは、仕事を始めて2年目。
- 3 家に帰れば優しいママの顔に。

目指せ！女性の親方
ほしのゆうな
星野優奈さん
建物の骨組みに壁や天井の下地を取り付けるボード施工。その一級技能士の資格をわずか26歳で取得し、現在、千葉県の三好フローリング株式会社から仕事を請け負っている星野優奈さんにお話を伺いました。

子育てと両立しながら 技術者の腕で勝負

平成26年、星野さんはボード施工一級技能士の試験に県内トップの成績で合格し、同時に優秀賞を受賞しました。「やはり自信になります。女性でもしっかり仕事ができることのアピールにもなりました。男性と張り合うというよりは、皆さんに娘のようにかわいがっていただきながら、これからも恥ずかしくない仕事をしていきたいです」と語ります。

星野さんの毎日は、朝7時に1歳3カ月の長女を保育園に預けることから始まりです。それから現場に向かい、夕方5時頃まで仕事。現場の場所によっては朝礼が始まる8時に間に合わないこ

ともありますが、周囲は子育てとの両立に理解を示してくれています。「正直に言えば、出産後は仕事を辞めようかと悩みました。でも、周りの方々が「戻っておいで」と言ってくれたので、復帰できました」。技術を習得し、いろいろな会社から請け負う形で仕事をするので、腕が勝負の世界です。会社勤めなどよりも、実は復帰しやすいのかもしれない。

もっと多くの女性に 建設業の魅力を

星野さんは、小学生の頃に手抜き工事のニュースを見て、建設関係の仕事に興味を持つようになりました。「自分ならもっと丁寧にやるのに」その思いから、内装工事をやっていた友人のお父さんの下で技術を学び、今では一人前の技術者として活躍しています。

生き生きと働く姉の背中を追って、妹の篠原絵玲菜さんも同じ世界に入りました。姉妹の願いは、内装工事に女性技術者の仲間がもっと増えること。腕力の部分で男性にサポートしてもらうこともまれにあります。ほとんどは女性でもこなせる仕事です。星野さんも今では、1枚12kg以上もある石膏ボードを2枚同時に運べます。「仕上げ材をきれいに貼る仕事が好きです」と楽しそうな星野さんが、親方として女性チームを率いる日も近いかもしれません。

ゼムケンサービスは北九州市の建設会社。『オモイをカタチに 建築は統合芸術』を経営理念にユニークな経営で注目されている。



すべての男女の力が生きる職場 籠田淳子さん

平成27年1月に内閣府から「女性が輝く先進企業表彰・内閣府特命担当大臣表彰」を受けた北九州の有限会社ゼムケンサービス。女性ならではの視点を強みに、女性中心の建設会社を経営する籠田淳子さんを訪ねました。

女性は人とつながることで 自分の成果を実感できる

ゼムケンサービスの代表取締役を務める籠田さん。建設業界に「女性力」という新しい風を吹き込み、注目を浴びています。女性力とは、場の雰囲気や周囲の空気感、周りの気配りができること。女性は何を必要とされ、どうすれば喜ばれるのかを考え、色や香りのような感性の部分も大切にします。

ゼムケンサービスでは女性建築デザイナーチーム（略称：JKDT）を結成し、「リビングにランドセル置き場を作ると、子どもが散らかす原因がなくなる」「読み聞かせを大切にしているから、寝室へ行く途中に絵本の置き場を」といった、それぞれの家庭のストーリーを大切に設計を実践しています。

「女性は昔から人とつながることを喜びとし、それを仕事の成果にしていくことが得意です。お客さまや仕事仲間

間とつながることが大事。思いの共有が顧客満足・従業員満足を両立させ、それが業績にも反映され、会社もとても満足です」と籠田さんは笑います。

男性とも手をたずさえ 女性力は「男女共創」へ

ゼムケンサービスに女性が占める割合は6〜7割。ワークシェアリングを取り入れ、それを会社の強みにしてきました。ワークシェアリングが成功したのは、みんな子育てや介護などを背負う「ワケあり」だったから。それぞれの背景を、籠田さんも含めてさらけ出し、家族のように理解し合える関係を築いています。

ただし、女性が集まるだけで女性力が発揮できるわけではありません。「私が、建設業界のジャンヌ・ダルク」として業界変革に奔走しているように、社員にも強みを端的に示すアピールポイントが必要だと、一人ひとりの個性を見極めた人材の構築も積極的に進めています。

女性力で成長してきたゼムケンサービスですが、これからは一歩先に進んで「男性力」にも期待しています。女性力は男性が引き出し、男性力は女性を引き出すもの。どちらかに偏らず、お互いの力を引き立て合う「男女共創」を見据える籠田さん。時代の流れを読みながら、新たなステージへと歩みを進めています。

三郎丸団地集会所移転新築工事の現場代理人として指揮を執る、一級建築士の根本かおりさん。小学校6年生の女の子のお母さんで、男性の現場監督がアシスタントについてワークシェアリングをしている。



ゼムケンサービス代表取締役の籠田淳子さん。父が営む工務店で、幼少期から多くの職人さんたちと付き合ってきた。一級建築士・インテリアプランナーなど、多数の資格を保有。北九州市ワークライフバランス市長賞・内閣府女性のチャレンジ賞・ダイバーシティ経営企業100選ほか、多数受賞。

ユニークな「しきたり」に表れた ゼムケンサービスの社風

- 11:30~13:00にみんなで楽しく食事。
- 夕方社員の子どもの下校してきたら、子どものおなかはずかせない。
- 22:00~5:00は仕事をしない。
- 子どもが学校行事は積極的に参加。
- 現場は妥協のない清潔さを保ち、事故のない環境をつくる。
(一部を抜粋)

